

SOPHIA STYLE

SELF-DISCOVERY MAGAZINE

2024

SOPHIA STYLE

SELF-DISCOVERY MAGAZINE

2024



Forge your journey

夢のシナリオ

どんな出会い？どんな場面？どんな想い？
いろいろなエッセンスが重なり、物語は動いていく。
夢に向かってひたすら歩み続ける、
ソフィアたちの物語を彩ってきたものとは？
一人ひとりから紡ぎ出されるメッセージは、
きっと、未来を切り拓くヒントに。
さあ、描いてみよう。あなただけのシナリオを。



表紙・巻頭ページ協力／後藤 達生さん(経済学部経済学科1年)・二神 絵月さん(法学部法律学科3年)

scene 01

キャリアセンターに通う日々で

外国で育った経験を
人々のために役立てたい。

志水 理沙さん

国際教養学部国際教養学科 2023年9月卒業
(パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社 内定)

母国を知るため、まずは日本語学習から。

「日本人だけど母語は英語」というのが大学に入るまでの私でした。理由は、父の仕事の都合でスタートした3歳からの外国暮らし。周囲の真似をしながら英語を覚え、その力を伸ばすために家族とも英語だけで話すようになりました。アメリカ、日本、イギリスと数年ごとに環境が変わり、高校は日本のインターナショナルスクールへ。これまで英語を使う生活だったため、卒業する頃になって日本語が拙いままでは良くないと思い、母国語である日本語を真剣に勉強し始めました。

同時に、言語だけではなく日本の文化も知りたいと強く思うようになりました。

それまでの海外生活でも、日本の風習について、例えば友達に箸の使い方のような簡単なことを教えたことはありましたが、自分自身が母国をほとんど知らないことに焦りを感じていました。そのため高校卒業後は、外国暮らしで身に付けた語学などを伸ばしながら、日本文化も同時に学べる上智大学の国際教養学部に進学したいと思い立ち、以降は家族との会話も英語から日本語に一転。漢字の勉強もイチから取り組み、猛勉強しました。

そしていつからか「将来は自分の経験を活かして人の役に立ちたい」という夢を抱くようになっていました。



強い想いが引き寄せた理想の企業。

入学後は大学でイベントのお手伝いをしたり、オンライン英語教室のアルバイトをしたりするうちに自然と成長していたように感じます。

就職活動については「私は9月入学だしどうなるのだろうか?」「日本語での面接は大丈夫かな」など不安でいっぱい。キャリアセンターのことは顔見知りの先輩から勧められていたので、まずはスケジュールの相談で利用したんです。4月入社に合わせた就活スケジュールを教えてもらい安心できました。さらに、就活を行うにあたってどのような準備をすればいいかを丁寧に教えていただきました。今思えば、キャリアセンターでの相談は私の就活の大きな支えだったと思います。もともと抱いていた「自分の経験や能力を人々のために活かしたい」という希望をテーマに、業界は問わず「なりたい自分になれる企業」を探すことから取り組み始めました。

3年生の2月に学内で開催された「オンラインOB・OG交流会(※)」は、就職活動の方向性を決めるのに役立ったと思います。バーチャルな会場内にOB・OGが座るテーブルが並んでいて、オンラインでお話できる仕組みで、私も複数のテーブルを回りました。自分の夢や希望をOB・OGに話すと、それ

だったら……、といろいろな業界や夢に近づく方法をアドバイスしてくださったので、就職活動をよりリアルにイメージできるようになりました。

また、最も不安だった面接については、キャリアセンターを積極的に活用しました。毎週のように予約を入れて、何度も何度も面接の練習を繰り返してほしいと思います。英語を話せるアドバイザーもいらっしゃるで大変助かりました。英語で考えたことをどのように日本語にすればいいのか……から始まり、徐々に最初から日本語で考えられるように。まったくできなかったはずの敬語も「真似」をしているうちに使えるようになっていきました。自己表現もどんどん上達していったのではないかと感じています。

就職活動を終えて感じるのは、「就活にはいろいろなプロセスがある」ということです。最初の頃、キャリアセンターの方に言われた「就活のプロなんていないんだから」という言葉は本当にその通りだと実感しました。私は、自分のテーマにこだわり、納得のいく企業に出会うことができました。言葉にするのは難しいのですが「ここだ!」という勘が働いたのです。こうした自分の感覚を大事にしなが、これからも焦らずに自分の道を進んでいきたいです。

※OB・OG交流会は2023年から対面で開催しています。

たとえ壁にぶつかっても 乗り越えた経験が自信になる。

横田 侑樹さん
総合グローバル学部総合グローバル学科 4年(株式会社JALUX 内定)



努力を重ねて強みを磨いた、ノルウェーでの1年間。

もともと英語が得意で、卒業を延ばしてでも交換留学しようと決めていました。英語力をもっと高めたい、知らない環境に身を置いてバイタリティーや適応能力を養いたい、福祉先進国として知られる北欧で、実際に暮らしながら社会保障や福祉について学びたい。こうした理由から行先をノルウェーに決めましたが、タイミングとしてはコロナ禍真っ只中。大学からは留学中止と言われていたものの、念のためビザも航空券も取って準備を進める中、渡航1週間前に大学の特例措置として留学可能に！ 念願叶って、3年の8月から留学生活がスタートしました。

現地で住んだシェアハウスは、ノルウェーの学生はもちろん、ギリシャ、イタリア、カザフスタン、ガーナからの留学生など、国際色豊か。普段出会えない人

と生活を共にすることはとても新鮮で、物怖じしない性格もあり難なく受け入れました。反対に苦労したのは、海外ならではのアクティブな授業スタイル。黙って聞く日本の講義とは違い、英語ネイティブの学生もいるグループディスカッションで、なかなか発言できなかったんです。英語に自信があるといっても、世界に出ると自分より上手な人はいくらでもいるんですね。世界の学生との差を痛感し、悔しさを感じる日々でした。

そこで、授業前にいろいろな文献を読んで予習したり、シェアハウスの友人たちとディスカッションの練習を重ねたり、コツコツ努力しました。日々の積み重ねのおかげか、最終的には自分の意見を自信を持って言えるように。逆境から這い上がる力は、この留学で身に付けることができたと思います。

悩みながらつかんだ、再び世界を目指す未来。

1年間の留学を全力で楽しんだため、本格的に就活を始めたのは帰国後から。留学で培った英語力に加え、柔軟性やバイタリティーが活かせる環境であること、そしてグローバルな舞台で活躍できること、この2つを軸に、航空、商社、海運など、海外とつながりがある業界に的を絞りました。

大変だったのは、情報共有や面接の練習をする仲間がいなかったことですね。友人たちは就活を終えていたため、一人で試行錯誤しながら始めましたが、最初のグループ面接では準備不足でうまく話せずボロボロに。自信がなくなり、モチベーションもダウンしました。この先、志望する業界の面接にも落ちてしまったら、チャンスがなくなってしまう……。その一方で、面接は場数を踏まないとうまくならないと分かっていたので、

とても葛藤しました。そこで、キャリアセンターの方に相談すると「面接は受けたいより受けた方がいいし、反省点も見えてくるから、積極的に受けて慣れていこう」とアドバイスされ、模擬面接もしていただいたんです。実際に回数を重ねると余裕も生まれましたし、似た質問には以前の答えに肉付けしながら話せるようになり、精度もアップしていきました。

最終的な進路は、航空×商社の事業にワクワクしたJALUXに決めました。日本と世界をつなぐグローバルな仕事も、国内の地域活性化事業をはじめとするローカルな仕事も、どちらも挑戦できるところに魅力を感じています。日本を飛び出して、グローバルな舞台で活躍できる人材になりたいですし、面白いと思ったものを商材にして世の中に広めていきたいですね。



浜詰 実有さん
法学部国際関係法学科 2年

忙しい学生生活を 送りたい!

中高時代、部活などに打ち込んでいる友人たちを見て、とてもうらやましく感じていました。これまでの不完全燃焼にリベンジするために、ハードで実りのある学生生活に挑戦しています。

Q どんな日常を過ごしていますか?

学内ではトップクラスに忙しい、アメフト部のアナライジングスタッフとして活動中! さらに、早朝からカフェでバイト、午後から授業や課題に取り組むという日々。今後、いろいろな壁にぶつかるかもしれませんが、今培っている忍耐力や向上心で乗り越えたいですね。

アパレルブランドを 立ち上げたい!

今は多様性が重視される時代! 異なる文化のインスピレーションを取り入れたアパレルブランドにしたいですね。新しいデザインやスタイルを生み出して、それを広めるのが目標です。

Q どんなアクションを考えていますか?

いろいろな文化をひとつに束ね、それぞれに感謝しようという思いから、ブランド名は「OBI(オビ)」に。仲間と一緒に、自分たちの気持ちをどのようにアパレルに落とし込もうか模索中! ジェンダーレスな服にして、たくさんの人に着てもらいたいです。



山下 仁さん
国際教養学部国際教養学科 1年

「1・2年生が やりたいこと」

6人のソフィアンが語る、

学生生活で叶えたい夢と挑戦。

留学に行きたい!

現地の言葉を学び、たくさんの人と話せるようになりたいです。いろいろな人と関わることができれば、自分が知らなかったことを知ることができますからね。日本とは違う文化にも興味津々!

Q この先のビジョンは?

春休みに2カ月間、マルタに行く予定です。英語でコミュニケーションを取ることが楽しみ! 小さな島国の暮らしに浸かって、そのカルチャーに触れてきます。将来の目標は、空港関係の仕事に就くこと。



鈴木 彩心さん
外国語学部
ポルトガル語学科 2年



出口 裕基さん
外国語学部英語学科 1年

サークル活動を 頑張る!

今所属しているのは、英語学科限定のサークル。夏休みに栃木の足利市に行き、5日間にわたって小中学生に英語をレッスンしています。交流の輪を広げ、今しか得られない経験ができればと思っています。

Q 日頃の活動と今後の目標は?

子どもたちに何をどのように教えるか、毎週のミーティングで話し合っています。実は、教科書づくりも自分たちの仕事。同期や先輩と過ごせる時間が長いので、コミュニケーション力を高めたいですね。もちろん、子どもたちに分かりやすく教える力も養えるといいな!



瀧藤 さくらさん
経済学部経済学科 1年

ライフセービングの 資格を取る!

高校から続けている、ライフセービングの活動を広げたいです。今は初歩的な資格しか持っていませんが、身を守る知識や技術を発信していけるように、インストラクターの資格を目指します!

Q ライフセービングの魅力とは?

ビーチフラッグスなど競技の一面もありますが、水辺のトラブルを防ぐことを目的にしているのが大きな魅力です。夏は茨城県の波崎にほぼ住み込みで、パトロールをメインに活動。ジュニア向けの取り組みとして、地元の小学校で着衣泳の授業を開いています。

積極的に 国際交流したい!

高校時代から英語が好きで、国際交流に関心を持っていました。継続的に会って話せる外国人の友だちを見つけたいと思い、2年生になってから留学生のサポーターとして活動しています!

Q どんな学びがありそうですか?

日本語を積極的に話す留学生は、言語の習得が早いです。文法やアクセントが間違っても会話はできるんですよね。私自身、今後フランス留学が叶った時に、聴せず会話できるかちょっと不安……。ですが、学びたい言語をどんどん話すことが何より大切だと、日頃の交流から感じています。



豊島 来美さん
外国語学部
フランス語学科 2年



NO. 01

4年生
×
卒業生

cross × talk

多彩なバックグラウンドを持つ人たちが暮らすアルペ国際学生寮で、学生たちをマネジメントするリビンググループリーダー。ともにその役割を担った先輩・後輩の2人に、寮での暮らしやリーダー経験を通して得たこと、さらに学生生活のアドバイスまで、たっぷり語ってもらいました。

意見することは悪いことじゃない。この一言が勇気をくれた。(桐生)

阪田 アルペ国際学生寮は、私が入学した2019年にできたんです。アクセスはいいし、せっかく上智という国際的な環境に身を置いたから、いろんな人と関わりたいと思って入寮しました。私が4年になるタイミングで、明香里が入ってきたんだよね？

桐生 そうです！ 私は英理奈さんの1つ下ですけど、入学時はコロナで地元から出られなくて、でもアルペに入りたはずとずっと思っていたので、学校にちゃんと通えるようになった3年のタイミングで入寮しました。

阪田 この寮にはいろんなバックグラウンドを持つ人がいるからか、1階の多目的エリアで誰かが話したり、ちょっと飲んでたり、みんなすごく活発だよ。日々のコミュニケーションが、今思うといい時間だったな。

桐生 本当に。スポーツの国際大会になると、ほとんどの男女が1階に集まってきて、応援するチームがみんな違うから、すごく熱が入ってましたよね。

阪田 私は1年からずっといたから、それこそコロナで寮生がいなくなった時にリビンググループリーダー(※1、以下LGL)が力を入れて活動していたのを見てたんだよね。だから3年になった春に、この寮に貢献するならLGLだ！と思って立候補したんだけど、明香里はどうしてLGLになったの？

桐生 入寮の半年後に立候補したんですけど、ずっと入りたかったこの寮で

何かコミットしたかったんです。LGLで活動したら、人とのつながりも増えると思って。

阪田 ユニット(※2)内の月1の食事会やミーティング、LGL会議、学生センターとのやりとり。他にもイベントの企画や掲示物の作成など、LGLは本当にやること多いけど、つながりは増えるよね。

桐生 男女合わせて26名のLGLが、チームに分かれて寮を盛り上げますもんね！でも最初に参加したLGL会議は、すごく衝撃的だったんです……。みんなポンポン言い合っていて。私はこれまで意見をまとめる聞き役が多かったので、余計に。

阪田 確かに、結構みんな意見してたかも。留学生のLGLが積極的に話すと、みんなそれに便乗してヒートアップすることもあったし。最初はどうしても発言しにくいかな。

桐生 反対意見は言っていたのかな？大丈夫かな？みたいな不安が、最初はどうしてもありました。でもある時のユニットミーティングで、「意見することは悪いことじゃないし、みんな受け入れることを前提にしているから、明香里も言っていたよ」と言われて。周りに受け入れる姿勢があったから、少しずつ発言できるようになったんです。

※1 新寮生のサポートから交流イベント、生活指導まで、学生センターのパートナーとして、より良い寮を創り上げるリーダーのこと。

※2 日常生活を共にする最大7名のグループ。



〰️ 試行錯誤して見つけた、自分らしいリーダーシップ。〰️

リーダー経験を通して、自分の新たな一面に気づけた。(阪田)

阪田 意見を言いやすいのは、この寮のいいところだよ。私はLGLとして、なるべく偉ぶらないことを意識してたな。リーダーといっても寮生だし、ここの環境を良くするためにみんなを代表して先頭に立っているだけ、という姿勢は忘れないようにしてた。

桐生 会議の時に感じてました。英理奈さん、すごく低姿勢だな、って。

阪田 本当？ やった！今更だけど安心しました(笑)。

桐生 私はぐいぐい引っ張っていくよりも、みんなと並走する方が好きで。周りを頼って、助けてもらいながら、一緒にやっていくことを大事にしました。

阪田 自分の認識では、リーダーやるなら先頭で引っ張っていくタイプだと思ってたの。でもLGL活動の中で、一歩引いた立場でいた方が心地良くて、ユニットもうまく回る瞬間があったんだよね。やってみないと分からないことだったから、自分を知るきっかけにもなったかな。

桐生 この寮は、すべて自分次第ですよ。LGLなら企画を考えたり、SNSで寮をPRしたり。いろいろ経験する中で自分の得意分野が見つかるというか。

阪田 そうなんだよね。あと、いろんな文化を持つ人たちの意見をまとめて、リーダーとして方向性を決めていく経験はすごく自信になったし、社会人になった今後も生きていくと思う。

桐生 いい意味でみんな意見がバラバラなので、聞くだけでも視野が広がりますよね。意見が対立した時は両方のいいところを取り入れて、新しい解を生み出そうとするんです。この方法ならもっと面白い解決案が生まれるんだと、身にしみて実感しました。



大学生活は自由だから、自分を知る絶好のチャンス。(桐生)

阪田 何かを決める時って、自分の意見を主張することはできても、受け入れることって意外とできないんだよね。でもみんな、寮を良くしたいという目標は同じだから。頭を整理して、たくさん出てくる意見を取り入れながら落としどころを見つけて、みんなで最良の選択をしていくことはいい経験だったな。

桐生 個人的には、発言することに苦手意識があった私が、少しずつ主張できるようになったのは、この寮とLGLのおかげですね。否定しないで受け入れる姿勢も大事にしていたことは、就活でもしっかりアピールしました(笑)。

阪田 周りの意見を受け入れて、自分の言葉で主張することは、社会に出た後もすごく生きてくるよ。それこそ、疑問点がある時に発信する力が身に付いたのは、寮のおかげ！

桐生 この寮で得たスキルを、私もこの先、活かしていきたいです！寮生活をするかしないか、もそうですけど、大学生活って何を選択すればいいかわからなくなる時がありますよね。本当に自由だから、でも決してマジョリティーに合わせる必要はないし、国際的な上智だからこそ、たくさんの人と話して自分と向き合い、改めて自分を知る時間にしてほしいなと思います。

阪田 本当に。社会人になって自分の時間が全然取れないことは、ものすごく痛感した……。さっき明香里も言ってたけど、授業もスケジュールもコミュニティもすべて自由で、選択肢の多い4年間になると思うから、時間を有効活用して学生のうちにいろんな経験してほしいですね。

桐生 明香里さん
総合人間科学部社会学科 4年
(豊田通商株式会社 内定)

阪田 英理奈さん
株式会社大林組
(国際教養学部国際教養学科
2023年卒業)

scene 03

とある先生との出会いで



アフリカが好き。
その想いで開拓した進路。

太田 萌々さん
法学部法律学科 4年
(デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 内定)

やりたいことをギュッと凝縮して計画的に。

ちょうどコロナ禍の最中に入学したので、1年目は広島の実家でオンライン授業を受けていました。2年目によりやく上京できるようになりましたが、残りはたったの3年。一人暮らしより、多文化・多言語環境で暮らす方が充実するのでは……、と考へアルペ国際学生寮に入寮することにしました。

学生生活を充実させるために学内ポータルサイトの「大学掲示板」も活用しました。1日に何度もチェックして、興味のあるイベントを見つけては積極的に参加。おかげで中身の濃い3年間になったと思います。中でも4年生で参加した「上智大学アフリカWeeks2023」では、運営学生代表という大役にも挑戦しました。これは、成長著しいアフリカ地域との交流と連携を目的に、講演会やシンポジウムなど多彩なプログラムを実施する毎年恒例の企画です。

アフリカへの想いは子どもの頃からで、そのきっかけは、アフリカを旅した女性が書いた記事でした。アフリカの困難な状況だけでなく、明るくパワフルな面も紹介されていてワクワクしたんです。上智大学に入学を決めたのも、

アフリカにまつわる授業が充実していたからですし、この「上智大学アフリカWeeks2023」に携わることは私にとって念願だったんです。

私以外のメンバーは様々な理由でアフリカへの渡航経験がある人がほとんど。座学でしか学んでこなかった私に何が出来るのだろうという不安はありましたが、メンバーの中で理想をすり合わせながら、私自身柔軟性を身に付けたように思います。担当したワークショップでも、参加してくれた高校生や他大学の学生などとフェアトレードやサプライチェーンについて意見を交換して多くの刺激を受けることができました。

実際にアフリカのコートジボワールを訪れたのは、このイベントの後ですがこれ以上の刺激を受けたことは言うまでもありません。潜在力のあるアフリカの姿をより鮮明に意識することができ、日本とのパートナーシップの重要性を感じました。内定している企業ではアフリカでのビジネス展開を検討する勉強会があるようなので、こうした経験を活かせたらいいなと楽しみにしているところです。



授業やイベント、いろいろな出会いに育まれて。

4年生は自分の興味がある分野や今後の仕事に必要なことなどを勉強する時間に充てたいと思っていたので、就職活動は2年生から3年生に上がる春休み頃から計画して早めに動き出しました。その頃はまだ方向性が定まっていなくて、大学院進学、公務員就職、民間企業就職の3つの軸で動いていました。

最終的にコンサルティングの会社に決めたのは、やはり私の大きな軸である「アフリカ」が影響しています。特に、3年生で受講した「アフリカにおける開発援助とビジネス展開」は、私の進路に大きな影響を与えたと言っても過言ではありません。もともとは国際機関などに勤められたらと思っていたのですが、実はビジネスでも、現地にいる人々と密接に関わることができるんだということに気づかされました。そして、ひとつの社会課題に対して多面的にアプローチできる業界で、まずは自分が出来る可能性を探ってみようと思うように

なりました。

当時この授業を担当された山崎瑛莉先生は、「上智大学アフリカWeeks」やコートジボワールへ渡航した実践型プログラム「アフリカに学ぶ」の責任者をされていたので、4年生になってからも多くのことを教わることができました。他学部・他学科の授業を受講できて多角的に学べる上智ならではの強みを十分に活用できた気がします。

いつか、ずっと先のことになると思いますが、私も山崎先生のように上智大学で教壇に立つことが今抱いている将来の夢です。その途中には、大学院に行くこと、アフリカ開発銀行に入るなど未来の夢は盛りだくさん。そのためにもまずは内定した企業で、多忙ながらも刺激的な日々をチャレンジしようと思います。

・上智生・ バイト 図鑑

アルバイト・インターンは学生生活の新しい一面を切り拓く冒険。様々な体験から得られるコトとは？ソフィア人たちのリアルな声がここに！

ソフトウェア会社の インターン

長期インターンの募集を就活サイトで見つけたのがきっかけ。マダガスカル育ちで海外の人とのやりとりが好きなこともあり、外資系企業にはもともと興味津々でした。

●インターンを通じて得たコトは？
企業向けのソフトウェアを販売している、インターン先に就職が決まりました。社内外の人との関わり方や製品についてのノウハウを得られたのが大きいですね！今は新卒の教育担当を任されています。

原田 佑介さん
国際教養学部
国際教養学科 4年

大学内のカフェ店員

空きコマの時間を有効に使えて、移動時間がかからないこともあり、1年生の時から継続中！調理や接客、レジの対応など、お店に関わる幅広い仕事をしています。

●バイトを通じて得たコトは？
礼儀やマナー、丁寧な言葉遣いに気を配れるようになりました！特に接客は、一緒に働いている仲間を参考にしています。学部を越えて、いろいろな人と出会えるのもいいですね。

樋口 有沙さん
総合人間科学部心理学科 3年

塾教材の校正・校閲

高校時代に通っていた塾の先生の紹介で始めました。御茶ノ水にオフィスがあるので大学から通いやすい！シフトも変更しやすいので長く続けられそうです。

●バイトを通じて得たコトは？
間違いなく、集中力とやりがいです！大量の原稿をチェックするのは地道な作業ですが、慣れると楽しいんです。自分が校正した部分がテキストに反映されると、とってもやりがいを感じますね。

大羽 綾香さん
法学部国際関係法学科 1年

区役所の 総合案内係

語学力を活かせる仕事がしたいと思い、海外の方がたくさん住んでいる街の区役所で働いています。閉庁時間が早く、勉強やサークルの時間を確保できるのも◎。

●バイトを通じて得たコトは？
丁寧な話し方や英語での対応など、コミュニケーション力が身に付きました。いつも心掛けてるのは、来庁する一人ひとりに合わせた接客。困っている方にお声掛けする、積極性もアップしたと思っています。

鹿島 夕莉さん
外国語学部イスパニア語学科 2年

個別指導の塾講師

論理的に説明できる理系科目に魅力を感じていて、中高生が持つこの分野への苦手意識を取り払いたいと思って挑戦。おしゃべりが好きなのも、塾講師を選んだ理由です。

●バイトを通じて得たコトは？
分かりやすく伝えるには、生徒の心を開くことが大切！接し方や話し方にはかなり悩みました。でも今では、一人ひとりの気持ちを読み取って、教え方を工夫できるように。一方、教えた知識を身に付けてもらう楽しさも体感中です。

後藤 由依翔さん
理工学部情報理工学科 3年

スタジアムの 運営スタッフ

好きな野球に携われるのが大きな魅力！プロ野球選手に会えるチャンスもあるんですよ。シーズンの開幕とともに始まり、1週間に3回ほど働いています。

●バイトを通じて得たコトは？
自分が試合を支えているんだ！という実感を得られるのがいいですね。仕事はチケットもぎりを中心に、ゴミ回収や警備などいろいろ。どうすればお客様に快適に楽しんでもらえるか、考えるようになりました。

加藤 伸太さん
総合グローバル学部
総合グローバル学科 1年

クリエイティブ エージェンシーのインターン

以前から興味があったPR業界を覗いてみたいと思い、インターンに応募。ラグジュアリーブランドとの仕事に関われるだけでなく、多文化を理解するという企業の姿勢も素敵！

●インターンを通じて得たコトは？
物事を調べる大切さを学びました。イベントという楽しくキラキラしたイメージですが、その裏側にはリサーチなどの事務作業。メールのやりとりも多く、文章力を磨くこともできました。

ベラエス ワニータソフィアさん
神学部神学科 3年

ホテルの サービススタッフ

ホテルで働くことは、幼い頃からの憧れ！英語力やコミュニケーション力に自信があるのも、始めた理由のひとつ。受験の時に利用したホテルなので、ご縁であるんですね。

●バイトを通じて得たコトは？
簡単に諦めない気持ち！料理やワインの提供では、先輩からアドバイスをもらい、練習を重ねて上達中。日によって一緒に働く人が変わるため、一期一会を大切にしながら頑張っています。

早坂 京夏さん
経済学部経済学科 1年

100円ショップの店員

みんなが同じスタートでやりやすそうだなと思い、オープニングスタッフとして働き始めました。新しい商品が毎週のように届くので、品出しする時が楽しいです！

●バイトを通じて得たコトは？
コミュニケーション力や対応力がアップしました。もともと、人と会話することが大好き。商品やセルフレジの操作で聞きたいことがあれば、お任せください！海外のお客様には英語でご案内しています。

高橋 結子さん
文学部新聞学科 1年

中学生で起業するも夢半ば。 仕事と学業を楽しむ日々。

小林 宙さん
文学部哲学科 2年



スタートは一人。でも“つながり”は大事。

中学3年の冬にネットショップを開設して以来ずっと、個人事業主と学生の2足のわらじでやってきました。高校入学と起業1年目が重なった感じですね。

商材は「伝統野菜の種」、ニッチな分野です。

東京都内の自宅で家庭菜園をやっていた祖父の影響で小学生の頃から農業に興味を持ち、次第に趣味が高じて郊外や群馬県の知人から農地を借りるほどまでになりました。そのうち一般的な種はほとんど栽培してしまい、もっと他のものを育てたいと思うようになり伝統野菜の種にたどり着きました。でも、そういったものはいつでも販売されているわけではなく入手が困難で、もっと手軽に買えたらいいのと思ったのが起業のきっかけです。起業の方法についてはインターネットで調べられたので簡単でした。両親に承諾

は取りましたが、手を借りることはありませんでした。

ですが、種の仕入れ先は自分で見つけなくてはなりません。これは少し手間がかかります。子どもの頃から農業を趣味にしているので情報の探し方は知っていたものの、世に出回っている情報は不確かですので、実際に自ら訪問することにしました。中学生だから門前払いされる不安もありましたが、だからこそメールするより直接出向いた方が早いと思ったんです。いわゆる“アポなし”です。当然、受付で「お約束は？」と聞かれますけど、「では、今取ります」とその場で翌日のアポイントを取ったりしていました。困難を乗り越えた時は、“自分の足を使う”しかないんですよね。仕入れた品種が思うように売れない時も同じです。ネットショップの画面越しで伝わらないのなら、あちこちに出向いてその魅力を直接伝えに行っています。

伝統野菜を広めたい、その情熱がすべて。

よく、どうして理系を選ばず哲学にしたのか？と聞かれることがありますが、僕の仕事は、伝統野菜を守って広めることだと思っているので、それを言語化するために哲学の勉強がしたかったんです。なぜ種が大事なのか、大事とは何か、もともとそんなふうに物事を考えることが好きでしたね。上智大学を選んだのも、それまでの読書を通じて知っている先生が多く在籍していたからです。

入学してからは日々ドイツ語と格闘しながら哲学の勉強をしています。もちろん、商売に直結する知識ではないので、むしろ“2足のわらじ”のそれぞれを楽しんでいるという感じですね。2つのことを同時に体験できるのはとてもエキサイティングです。今学んでいることは、ずっと先の未来でリンクしそうな予感もあります。

仕事と学業を両立させるコツについてもよく聞かれますが、何しろ圧倒的に時間が足りないで、「とにかく目の前にあるものをやって、疲れたら寝る」としか言いようがないんです。確かに自営業だと自由な時間は多い、だからといって怠けてしまっては何にもならないし、頑張れば必ず儲かるわけでもないから意外とラクではないですね。

将来は、事業を大きくしたいというより、同じ取り組みをする仲間が増えてくれたらな、と思います。伝統野菜を後世に伝えたくても僕一人では限界がありますからね。取りあえず卒業後は大学院への進学を考えています。知識はもちろん、人とのつながりを広げて、少しずつ仲間を増やしていきたいですね。



小さな種を蒔く、 やがて大きな自信が育つ。

学生課外活動団体KASA Sustainabilityと上智大学サステナビリティ推進本部が共同で開催する「Sustainable Campus Forum」。2023年6月、「大学は農場になれるのか？」をテーマに開催された4回目のフォーラムにゲスト登壇した在学生の小林さん、卒業生の国吉さん、運営に携わったショートさんの3名に、サステナビリティとの向き合い方について語っていただきました。

それぞれの活動が上智でクロスオーバー

ショート 私たちの出会いは、まず国吉さんがKASA Sustainability (以下、KASA) に連絡してくれたところからでしたね。

国吉 そうでしたね、時々訪れていたキャンパスで偶然、畑らしき場所や生ゴミを堆肥にするコンポストなどを見つけたんです。そしたらそこに「KASA」って書いてあったのでホームページを探して……。園芸の仕事をしているので何か協力できるかもってメールしたのが始まりです。

ショート それで私がお返事を送って、確か、そのやりとりの中で伝統野菜に興味があることを伝えました。ちょうどKASAのメンバーの一人が伝統野菜に詳しい人を探していたので。

国吉 そう、それで私も伝統野菜の種を売っている面白い高校生がいるっていう話を思い出して、すぐにSNSを調べたんです。そしたら小林さんにヒットしたというわけ。まさか後輩だったとは！

小林 所属は積極的に公表してなかったんですけど……。こんな偶然

があるんですね。

ショート “大学は農場になれるのか？”というテーマにピッタリなお二人と次々に出会えてラッキーでした。当日は約80名の参加者を前にお話しいただきましたよね。その後、参加者にはグループに分かれて議論してもらいました。

小林 あらゆる方向に議論が広がっていったのが印象的です。僕も伝統野菜を扱いつつも、そこまで深く考えていなかった部分もあるので勉強になりました。

ショート 広がっていくことが大事だと思います。多様性の大切さや、競争よりもコラボレーションが大事とか、いろいろ盛り上がりました。

小林 主体性が大事という意見も多かったですね。

ショート サステナビリティへの関心を高めるために、ガーデニングや農業体験などの授業の開講、ファーマーズマーケット開催といった興味深いアイデアもたくさん出ていました。

興味がない人をも巻き込む仕掛けづくり

国吉 本当にたくさんの人が参加してくれたし、意見交換も活発でしたね。でも、一方で日本の学生がほとんど参加していなかったことが少し残念でした。

ショート そうですね。バイリンガルでの開催だったのでそういったハードルもあったのかも。どうしたら日本の学生に参加してもらえるかというのは今後の課題です。

小林 チラシも置いていたし、SNSでもかなり告知を流していたので、日本の学生の目にも触れていたはずなんですけど、難しいですね。

国吉 それでも、私が学生だった頃と比べると随分意識が高くなったように感じますよ。大学にコンポストがあるなんてとても驚きましたし、休み時間に学生がマイボトル持参でウォーターサーバーの列に並んでいるし。

小林 実は僕も仕事でエンカルやSDGsについて聞かれるんですけど、毎回よく分からないまま答えているんです。何を調べてもよく分からないというのが本音です。ただ僕の場合、登壇側なので強制的に会場に向くじゃないですか。今回もそうですけど、学生が自主的にワイワイ話している環境にすんなり入れたことが僕にとってはいい経験だったし、刺激になりました。

国吉 強制的にというのもある程度必要かもしれませんね。

小林 基本的に日本の学生はそういうところに参加する習慣がないんでしょうね。だから、いっそ中庭とかでいきなり始めて、その場にいる学生を巻き込んだりパターンとかもありんじゃないかな。

ショート 確かに、土に触れて、自然を感じられる実体験してほしいし、そういう機会を提供できたらって思います。レクチャーも大事だけど、聞いているだけだと実感が湧かないから。

小林 手を動かすということによって、何かしら得られるものはあるんじゃないかって僕も思います。

ショート 最近は、若者のデジタル疲れが話題になってますし、特にコロナ禍でずっと閉じこもっていたせいか、アウトドアに興味を持つ人が増えたように感じます。

国吉 人間やっぱり最終的にはみんな自然に戻るのかもかもしれませんね。



SDGsとかサステナビリティみたいな地球規模ではなく、江戸時代のエコのようにまずは身近なところから考えてみるのはいかがでしょうか？

ショート KASAのメンバーは留学生が多いので、そういった視点は少ないですね。日本の学生に興味を持ってもらうためにも、もっとそのようなアイデアでアプローチするのも大切かもしれません。

国吉 小林さんがいるからというわけではないですけど、種を蒔くって大事ですよね。意識して種を蒔くのは人間だけ。育てて、収穫する喜びは、自信にもつながります。だからまずはそこから始めるのも一つの方法かなと思います。

小林 最初の種蒔き、このワンアクションは人間の手からなんですよ。大人になると、この重みがよく分かるようになってきました。

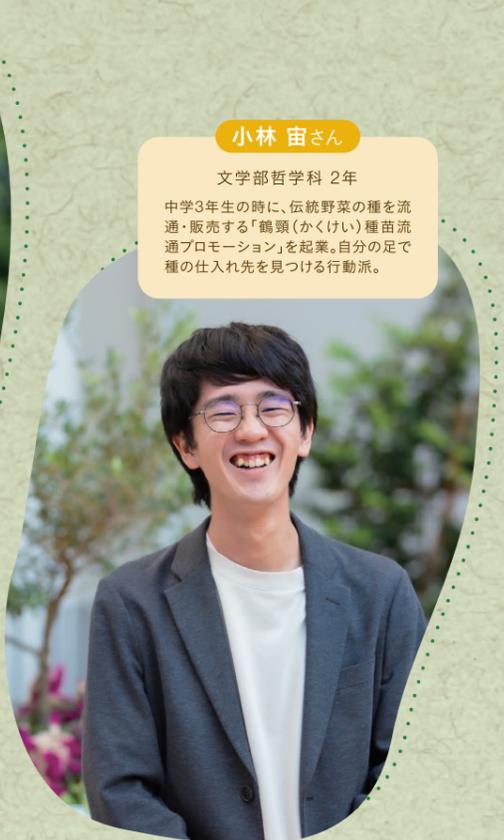
ショート KASAでは花壇作りなどもしているので、より多くの学生が参加できる、例えば種蒔きや植物を育てる体験ができるようなワークショップも企画したいですね。



国吉 純さん

文学部教育学科卒業
(現 総合人間科学部教育学科)
株式会社ジュリエッタ・ガーデン
代表取締役

園芸家、レモン研究者として、触れて育てて楽しめる植物選びや育て方をレクチャー。「暮らしの中の園芸」を様々なフィールドで紹介している。



小林 宙さん

文学部哲学科 2年

中学3年生の時に、伝統野菜の種を流通・販売する「鶴頭(かくけい)種苗流通プロモーション」を起業。自分の足で種の仕入れ先を見つける行動派。



ショート真菜さん

総合グローバル学部
総合グローバル学科 4年

気候正義を知り、高校2年生の時に環境活動団体を発足。現在、「KASA Sustainability」に所属し、環境問題と社会問題の関係性を探る活動などに取り組む。

scene 05

サークル幹部として励む中で



初の試みも全力で挑み、磨いたチカラを未来で活かす。

北川 新菜さん
理工学部物質生命理工学科 4年
(トヨタ自動車株式会社 内定)

就活もサークルも、メリハリをつけて自分らしく。

就職活動を意識したのは、3年になってすぐの頃。周りの友人たちは動くのがとても早く、その焦りもあってキャリアセンターのガイダンスに出席したり、1dayのインターンに参加したり、少しずつ始めました。勉強、試験、ダンスサークルと、毎日がとても忙しくて本腰は入れられなかったですが、まずは様々な企業を知るためにサークルの練習中や電車の中でオンライン説明会に参加したことも。業界研究や企業研究も同時に行っていましたが、曾祖父、祖父、父が働き、私自身も幼い頃から自動車の魅力を身近で感じていたため、トヨタ自動車で働きたいという明確な夢があり、周りとは違う就職活動になるかもしれないと自分なりに感じていました。

本格的に就活をスタートしたのは、サークルの引退公演を終えた3年の12月。やり切ったからこそ、次は就活！とスムーズに切り替えができたのかもかもしれません。何より、全力で取り組んできたからこそ身に付けられた相手の立場を考えたサークル運営や人を巻き込んで実行する力などのエピソードは、エントリーシートでも面接でも、熱量をもって語ることができたと思います。社員の方々の座談会でも運営経験について話をしましたが、アピールできる内容だと言っていたのはとても心強かったですね。ここなら私も安心して成長でき、また本領も発揮できると思い、念願のトヨタ自動車への就職を決めました。



動かないと何も変わらないから、まずは行動あるのみ。

学生時代に力を入れたことは、間違いなくダンスサークルです。幼い頃はクラシックバレエに夢中でしたが、大学では様々なジャンルに取り組むサークルに入りました。私は1年の時からバレエ要素の強いジャズダンスに挑戦し、3年では約300人のメンバーを率いる幹部の一人に。先輩たちもコロナ禍で運営が大変だったようで、赤字の状態を引き継いだんです。外部スタジオは借りられない、イベントの開催もできない、という厳しい状況だったため、会計制度の見直しと初のクラウドファンディングを実施しました。特にクラファンは、サイト作成やリターン品の用意など、やらないといけないことが本当に多くて。メンバーに業務をお願いしても、うまく連携できないことが多々ありました。部活と違って、サークルに強制力はありません。誰かがやらないといけない、とはいえ私一人では抱えられない。でもやらないと何も変わらない。だからこそ、状況を

しっかり把握し、メンバーの考えを聞いてどう連携していくか、ということに注力しました。密にコミュニケーションを取り、全員でタスクを一つずつこなしていった結果、42万円の収益を得て赤字は解消、引退公演も大成功！終演した瞬間の達成感は、今も忘れられません。大規模なサークルの運営は、他では得られない貴重な経験でした。何でもやってみる姿勢で取り組んだからこそ、人を巻き込み、意見をすり合わせ、周りに発信する力を強化できました。こうした話を論理的に伝えられるよう就活を通して刃を研ぎ、今ようやく武器として使えるようになったと思います。社会人になってもサークルの時と同じように、誰もが話をしやすい環境づくりは意識していきたいです。そして、高め合える仲間を大切にしながら働きたいですね。

“思いにまっすぐ歩んだ先に、新たな目標が見えてくる。”



新卒なのに、中途採用枠で入社したんです。(関)

網倉 久しぶりですね! お元気でしたか? 今日は関さんがゼミ選考面接の時に提出してくれた書類を、秘密兵器として持ってきましたよ。

関 えっ! まだ残っているんですね!? 志望動機は……“私自身、日頃からなぜこの商品や歌手が売れるのかと考えるのがクセで、網倉先生の授業を楽しいと感じ、そのようなケーススタディーができる網倉ゼミしか選択肢はありませんでした。”

網倉 今読むと僕をヨイショした文章だね。自己認識は間違っていないと思うよ。関さんは、目標が決まって道筋が分かると、努力を続けられる人。

関 シンプルにやりたいことだけチャレンジしたいので。就職活動も同じで、広告会社と出版社しか受けませんでしたからね。就職氷河期と呼ばれた2001年卒で、業界を絞っていたから全然決まらず……。そんな時に、広告会社の中途採用の募集を見つけ、卒論を添えて送ってました。

網倉 私を採用しないと、御社は損をするぐらいの売り込みをしたんですよ? 学生に任せておけばみんな志望先を見つけてくるから、僕はあまり関さんの就職活動の相談にのってなかったよね? 時々、ゼミで活動の状況を聞いて、頑張ってるね! ぐらいの感じだったと思う。

関 そうしたら、卒論を読んだ志望企業の当時のマーケティング局長が気に入ってくれて、新卒なのに中途枠での採用が決まりました。幸い4月入

社だったので、基礎的な研修だけは参加できたものの、いきなり実務でしたね。例えば、商品を作るという場合はあらゆるリサーチが必要なので、そのための材料集めからスタートしたんです。

網倉 そういえば入社してすぐ、僕に電話してこなかったっけ? 「中途だから早々に配属されたけど、何をしたいか分からなくて」って。

関 ちょうどその頃、研修でメディア局の雑誌部門に行き、月刊情報誌の編集タイアップ広告を先輩と一緒に担当させてもらった時、雑誌の面白さを味わったんです。当時はまだ20代前半で、何でも挑戦してみようという感じでした。出版社への思いが強くなり、1年半ほどでウエディング雑誌の出版社に転職したんです。

網倉 さっき触れた秘密兵器の書類に、卒業したら何をやりたいか書いてもらったんだよね。2年生のゼミ選考の時だけと、関さんはメディアの制作をやりたいと答えていたから。その頃にもう決まっていたんだね。

関 ただ、実際に働いてみると、もともと自分がイメージしていた仕事の内容とかなりギャップを感じてしまい……。2年ほど在籍したものの、楽しさは感じられませんでした。以前の仕事のほうが良かったという話をしたのは、前職の上司と会った時。派遣契約を条件にマーケティング局に戻れるようにすると言ってもらえて、復帰を決めたんです。



ミン チョンファ
関 青和さん
株式会社JPメディアダイレクト
経済学部経営学科卒業
上智大学大学院
応用データサイエンス学位プログラム修士1年

cross

網倉先生が“今までのゼミ生の中でも印象深い”と語った、OGの関 青和さんと対談。

大切なのは、実務経験を積むことと学ぶ機会を持つこと。(網倉)

網倉 関さんが広告会社に戻ってからだと思うけど、働く先輩の話や聞くという大学の企画に参加してもらったよね。「スーパー派遣社員として、会社のデータベースのことは何でも知っています」と話してくれた時は感心したよ。

関 新入社員の時にたたき込まれて、重宝がられていましたから。数々の仕事を担い、気づいたら12年もいたんです。ただ、そろそろ正社員として働ける会社に転職したいと思い、現在のJPメディアダイレクトに入社しました。マーケティングに長く関わってきて、もっと統計学的に根拠のあるデータ分析ができるようになりたいとも考えていたんですよ。

網倉 学生時代はデータに興味を示さなかったけど、データを使って統計分析する大切さを分かってもらえたんだね。

関 今はデータ分析を実務で携わらせてもらい、データサイエンスの必要性を感じています。実際に手を動かすようになると、解釈の仕方が分からないとか、いろいろな壁がありまして。データを活用して新しい価値を生み出す業務を、と採用されましたが、独学なので分からないことも多く、体系的に学びたいと思っていましたら……。

網倉 上智の大学院で応用データサイエンス学位プログラムをやります、という広告が出ていたんだ。

関 ビジネスに役立つデータ活用ということで、すぐに検索しちゃいました。現職の上司と面談した際、母校の大学院に通いたいと伝えたら、後押ししてくれました。一定の条件さえクリアしていれば筆記試験が免除されるとのことでしたので、ビジネス統計の資格も備えて取得したんですよ。そんな経緯で入学したので、はじめのうちは授業についていだけで精一杯でした。

網倉 理工学と経済学の2つの領域をまたぐところが、今回の領域横断的な学位プログラムの特徴なんだよね。統計分析の最先端も学べるし、もう一方で実務応用も学べるという。

関 データサイエンスは、ビジネス力、情報処理能力、統計知識といったものが絡み合った学問なので、どこに力を入れるかで、選択科目も違ってきますよね。私は人の行動や心理に興味があるので、マーケティングの授業を厚く取ってこうと思っているんです。マーケティング調査したものに対するエビデンスとして、データを活用していければと考えています。

網倉 物事を決定する時、今までは経験や勘に頼るところがあったよね。今はデータがたくさん取れるけど、意味のある解釈が出せないと単に数字が並んでいるだけ。それを学ぶために大切なのは、実務経験を積むことと、別の環境で学ぶ機会を持つことだと思う。学び続けることは、これから大切になるだろうね。

人生は初めてのことばかり。やりたいことをやってほしい。(網倉)

関 学生時代は何が自分に向いているのか見つからない人があるし、もしやりたい職に就けても向いていなかったということもあるんですね。でもそこで終わりではなく、やりたいことが新たに見つければ、そちらに行けばいいと思うんです。

網倉 みんな失敗してはいけないと思ってる。最初の就職で大企業に行かないと、転職できないようなことを言う学生も。楽しそうだからやってみるぐらいの気持ちでキャリアを始めても、いくらでも修正できる。人生は初めてのことばかりだから、やりたいことをやってほしいね。

関 世の中がすごいスピードで変化しているので、自分もどんどん変化していかないといけないんです。たぶん、その過程に自身の成長があると思っています。

網倉 そうですよ。学生時代、関さんはExcel*があんなに苦手だったのに、今はここで勉強していますからね。

関 就職のために勉強するのではなく、「こんなことをしました。こんなことが好きです」と、自分の「好き」を伝えられる人が魅力的だと思います。楽しく過ごしながら、就職活動も学生生活も送ってほしいです。楽しんだもの勝ちだから。



NO. 02

卒業生
×
教授

網倉 久永 教授
経済学部経営学科

ゼミやキャリアのこと、学び続ける大切さなど、未来を切り拓くヒントが詰まっています。

*Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

神学を追究したら、 未来が大きく広がった。

須藤 貴裕さん
神学部神学科 4年（野村証券株式会社 内定）



神学が導いてくれた、金融という新たな可能性。

神学部の学生は、神学を活かせる業界はあるのかと不安になってしまう人が多いです。私も最初は、神学以外の知見が足りないと感じていました。

ところが、神学部での学びは、経済や社会とも深くつながっていたんです。ターニングポイントとなったのは、引間雅史先生の「ESG概論」。ESG投資とは例えば、環境を守ったり、女性の活躍を応援したり、ダイバーシティを掲げたりする企業を応援しようという投資方法なんです。その始まりは、牧師さんたちが「ギャンブルやたばこ、軍事機器やポルノを扱っているような企業には投資をやめよう」と提言したことからだったと知りました。上智大学はESGに配慮するように国連が定めた「国連責任投資原則（PRI）」に、2015年、大

学機関として日本で初めて署名しているんですよ。

宗教と経済って交わらないイメージだったんですけど、違ったんです。倫理観とか道徳性を投資に活かしていかないと、経済発展だけを追求しては、環境も人も壊れてしまうんですね。ちょうどこの頃からです、将来働くなら金融の業界もいいなと興味を持ち始めたのは。

宗教の授業を受けていると、使命とは何かを深く学びます。いろいろな生き方がある中で、自分のモチベーションの源は何か考えてみると、それは使命感ではないかと気づいたんです。使命という視点で、自分自身だけでなく、幅広い企業を見つめることができたのは、後の就活でも本当に大きかったと思っています。

就活は、胸を張って“神学部推し”で。

神学部に入ったきっかけは、高校生の時のホームステイ体験です。ホストファミリーが熱心なクリスチャンでした。一緒に教会に行ったり、日本人が考えるような宗教観ではなく、心の底から人生の支えにしていることがひしひしと伝わってきたんです。世界史でも習ったように、宗教が世界を動かしてきたことを実感。いつか国際的に働きたいと考えていたこともあり、思想の根底にある宗教を知りたいと思い立ちました。

そこで日本で唯一、カトリック神学部がある上智大学へ入学したんです。神学部は、信者ではない人も学べます。いろんなバックグラウンドの学生がいるんです。その中で、神学の権威である先生方から本物の教義を学ぶというのは、ここでしかない有意義な体験だと思っています。

今までの学びをもとに、今後やるべきことは、使命感を持って働くことです。目標としていた金融業界の面接を受けてみると、周りには経済学部の人もいて、神学部であることに萎縮してしまいましたが、神学を学んだ上で、ESG投資やSDGsなどの現代の諸問題を勉強できて本当に良かったです。それぞれの問題にどうアプローチするかというと、その根底はやっぱり聖書にあるんですよね。経済学も及ばないところなので、面接官の方にも関心を持っていただけました。

同じ学部の後輩には“神学部推し”でいいほしいと思います。上智の神学部という唯一無二のアイデンティティを活かして、夢の実現に向けて積極的に取り組んでもらいたいですね。

キャリアセンターに行こう!

「今、心動かされること」に熱中して取り組むことで、「未来」は拓けていきます。ただし今、未来のことが知りたい方、気になる方もいるはず。そんなあなたが一歩を踏み出せるよう、キャリアセンターが用意するプログラムなどをご紹介します。



Q. キャリアセンターってどんな場所?

悩める上智生たちの強い味方が上智大学キャリアセンターです。進路に関わる個別相談、卒業生検索、書籍の閲覧など、1年生から卒業するまで、活用できるものがたくさんあります。自分の可能性や魅力を広げる場として、どんどん活用しましょう。

キャリアセンター
ガイダンス参加者数
(2022年度)
延べ9,983人

キャリアセンター
個別相談利用者数
(2022年度)
延べ5,337人

ガイダンス
実施数
(2022年度)
約217件

キャリアセンター
登録求人数
(2022年度)
36,767件



キャリアセンター職員:
オジェ・ギャリーさん

キャリアセンターが提供するプログラムなど

1 WEBキャリアセンター

キャリアセンターからのお知らせや個別相談、ガイダンスの申込など、キャリアセンターに関するすべての情報のポータルサイトです。過去に配信されたガイダンスのオンデマンド動画もこちらから視聴できます。詳しくは一度アクセスしてみてください!



2 就活支援ガイダンス

就職活動を行う上で「これだけは押さえておきたい」基本事項やポイントをお伝えする「総合就職ガイダンス」をはじめとして、「採用試験対策セミナー」や「模擬面接会」など、就職活動時期と内容に応じた様々なプログラムを実施しています。



3 インターンシップ

インターンシップは将来の進路選択に向けて、就業観を醸成するための機会です。参加に向けた基本的な情報や、選考対策などを含めたガイダンス、また2日間にわたるインターンシップ集中講座なども定期的に開催しています。



4 キャリアディベロップメント (全学共通科目)

企業の方から提示された課題に基づき、チームに分かれてディスカッション。その成果をプレゼンテーションし、企業側からもフィードバックをいただけます。入学間もない時期に社会の課題に触れられ、社会人の目線も得られる低学年向け正課授業です。



5 キャリア形成支援プログラム

低学年のうちから「働く」ことについて自分自身の価値観を知り、また社会人と一緒に多様な価値観を発見できるようなワークショップ型セミナーも実施しています。将来の選択肢を広げるためにもぜひ参加してみてください。



6 OB・OG訪問会

「OB・OG訪問会」では、近い距離で、卒業生にざっばらんに質問ができます。大学時代の過ごし方やそれが社会に出てどう活かされているかを聞くことで、社会人の考えがより身近になります。



7 内定者アドバイス会

先輩たちは就職活動をいつから・何から始めたの? どんな学生生活を送っていた? など、様々な業界の内定者から、就職活動の経緯や苦労したことなどリアルな話が聞けます。先輩の体験談を参考に、自分の進路を考えるうえで、視野を広げ考えを深めることのできる会です。



8 留学前後支援・国際派就職プログラム

留学に行きたい、将来は語学力を活かして世界を舞台に活躍したい...という方に向けたガイダンスを複数開催。留学時期に応じた就職活動の進め方や、留学経験者によるアドバイス会のほか、グローバル人材を積極的に採用したい外資系企業等を集めた英語キャリアフェアなども実施しています。



キャリアセンターで受けられるサポート・利用方法

1 個別相談

就職や進路についての様々な質問・相談を個別ブースで受け付けています(WEBでの事前予約制。オンラインまたは対面形式で実施)。他の人に話すことで、自分の考えが次第に形になります。1年生からでも気軽にご利用ください。



2 OB・OG情報

キャリアセンターカウンターには、各企業・団体から送られてきた卒業生名簿を設置しています。実際に社会で活躍している先輩を訪問し、仕事理解や働くイメージを具体的に持たせたい時に活用できます。



3 PCコーナー

Loyolaシステムが利用可能なパソコンを4台設置しています。この専用端末では卒業生照会などが可能です。



4 シリーズ別情報掲示板

インターンシップ、公務員、教員、外国人留学生など、カテゴリー別に注目すべき情報を掲示しています。また、自由に持ち帰ることができる資料も各種配置しています。



5 WEB面接用BOX

キャリアセンター内にWEB面接用BOX(テレキューブ)を3台設置しています。近年増えているWEB面接や面接用動画の撮影に利用できます(事前予約制)。



6 キャリアセンター窓口カウンター

キャリアセンターの活用法や就職の悩みなど、ちょっとした質問も気軽に聞くことができます。



7 図書貸出コーナー

自己分析・業界研究・採用試験対策に関連する本を揃え、在校生への貸出書籍用として配架しています。



キャリアセンターのお知らせはLoyola「就職・キャリア支援」→「WEB キャリアセンター」で確認できます。XやLINEでもタイムリーなキャリアセンターのガイダンスなどの情報を配信しています。

X @Sophia_Career
@sophia_career
LINE@ @sophia_line

